

小平西のきずな

「小平西地区地域ネットワーク」ニュース No. 1

2012 年 6 月 1 日発行

発行責任者：草野篤子（白梅学園大学）

TEL: 042-346-5639

住所：〒187-8570

東京都小平市小川町1-830

「お互いの顔が見える地域づくり」

にあなたも参加しませんか？

昨年 3 月に東日本大震災が起こり、身近な地域の人と人との結びつきがいかに大切かが指摘されました。昨今の子どもや地域をめぐる状況は厳しく、高齢者が一人で孤立して生活していても周りの人が気が付かなかったり、若者の引きこもりや不登校なども家庭に責任が負わされてしまい、外部との交流もできなくなっています。メディアや文明の発達で人間関係を個人的なものにしているのもこうした傾向に拍車をかけています。

このような現状を少しでも改善し住みやすい地域にしていこうと、今年 3 月 17 日に小平市の西地域の NPO、ボランティア団体、学校、児童・民生委員グループ、町内会、大学関係者、行政側代表などの方々が白梅大学

に集まってネットワークを立ち上げました。「お互いの顔が見える地域づくり」、「生活している地域の絆（きずな）づくり」をめざします。具体的には、個々の団体のイベント、お祭り、防災訓練などのさまざまな活動の交流を行います。どなたでも参加できます。地域の豊かな人間関係が人間への信頼を高め、住みやすい地域をつくるためにあなたの力が必要です。一緒に参加していただけませんか？

そのネットワークに加わったいろいろな団体・個人を結ぶ広報紙を作ることになりました。その名もずばり「きずな」です。皆さんの協力で人間関係の「きずな」を深めていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。



設立集会（3月17日・土・白梅学園大学）の様をお伝えします。

1. 学生によるオープニング・セレモニー

ネットワーク発展のために私たち学生も皆さんといっしょにがんばります。



2. 開会あいさつ(草野 篤子)



白梅大学は長年「地域のネットワークづくりの研究」に取り組んできた。地域の豊かな人間関係が人間への信頼を高め、子育ての喜びや生きがいをもたらすと考えたからである。

昨年9月から3回にわたって小平市西地域の方々に集まっていただき、「小平西地区ネットワーク準備会」を開き、本日設立集会を開催することになった。たくさんの地域の皆さんの参加

で身近なところでの人間関係づくり（ネットワークづくり）が進むことを望んでいる。

阪神大震災のときにガレキの中から人を救い出したのは近所の人だったと言われています。私たちは今地域を見直し、人のつながりを大切にしていく必要があると思う。地域の social capital を大切にしていきたい。このネットワークでは「顔が見える交流」を目指したいと考える。

3. 小林正則市長挨拶



今年10月で市制施行50周年を迎える。昭和37年に小平市になった。当時人口約7万人で、現在は18万4千人。かえりみれば、この50年は地域のインフラ整備に費やしてきた。人口急増に追いつくために学校、保育園、住宅、道路などの施設整備にひたすら努力してきたわけである。これまでの50年は「物の豊かさ」を追求してきたが、これからの50年は「心の豊かさ」を求めたい。今年はそのスタートの年にしたい。

これまで縦割り行政でやってきたが、今後の行政サービスはできるだけ市民の皆様が利用しやすいようにしたい。東京都全体では1世帯が「2」を切った、つまり「一人住まい」が圧倒的に増えている。

結婚しない人も増えてきている。今後は「一人住まい」の人のためのサービスを提供することを行政の基本にすえなければならない。このような人のために地域のネットワークが必要になってきている。

今後は地域ネットワークと行政が密な連絡をとっていかないと行政サービスに「漏れ」が出てくることも予想される。ネットワークの様々な団体と話し合いを大切にしていきたい。50周年を境にして今後は地域のことはできるだけ地域の話し合いで決めていただくようにする、つまり「自治完結型」を目指したい。ネットワークの担い手を増やしていく、そして小平市は全体を見回して必要な事業を行うというようにしていきたい。市としては、このネットワークづくりに大いに期待し、対等の立場で全面的に協力していきたい、と考えている。

4. 経過報告(森山千賀子)



これまでの経過を申し上げます。

2011年6月：「大学から歩いて行ける距離・顔の見えるネットワークづくり」をモットーに学内プロジェクト立ち上げ。

8月末：市民活動団体、民生・児童委員、高齢者クラブ、保育園、幼稚園、小学校、中学校、高校、介護福祉施設、医療機関など130余りの団体・個人にネットワーク作り協力依頼の文書を送付。

9月29日(木)：第1回準備会。地域から40名を超える方々と学内の教員15名、学生13名が参加。

11月17日(木)：第2回準備会 36名参加。4グループに分かれて討議。

2012年

1月10日(火)：学内メンバーで打ち合わせ会。ネットワークのHP立ち上げ。

2月2日(木)：第3回準備会。グループ討議を経て各グループで「世話人代表・世話人」選出。

3月1日(木)：第1回世話人会。設立集会の準備。

3月17日(土)：設立集会

4月17日(木)：懇談会(予定)

5. 講演「地域ネットワーク作りの意義と白梅学園の役割」

小松隆二(学校法人白梅学園理事長)



かつては大学の周りに大学街・学生街があり、食堂、本屋、雀荘、洋服屋などと協力・依存関係が存在していた。近年、そこは企業・サラリーマンに占領

された感がある。今日地域と大学が相互に関心を持ち協力することが求められている。基本的には両者に街づくりの視点が必要であると考え。

●大学が地域にできること：図書館、講演・シンポジウム、コンサートなどの開放。町のボランティア団体との協働。

●地域のネットワークについて

目的：人間的なつながりのできる環境条件づくり・街づくり

意義：公平・平等・自立の視点に立つ人と人とのつながり

課題：*より良い暮らしをめざす街づくりの視点をもつこと

*情報過多に陥らないこと

*プライバシー保護に留意すること

*一部の人に負担がかかりすぎないこと

6. 地域ネットワークづくりの提案(瀧口優)



●地域ネットワークは以下のことを目指したい。

①生活している人たちの「絆」作り、②住みやすい地域、③小さな単位でのネットワークづくり、④大学が地域の人たちとともに歩む場をつくる

●地域の組織：第1ブロック：小川西町と栄町
第2ブロック：中島町と武蔵野美術大学寮までの地域

第3ブロック：武蔵野美術大学から水車通りまでの小川1丁目と上水新町丁目

第4ブロック：水車通りから府中街道までの間の区域

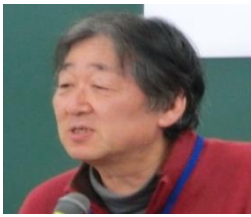
●行政などとの協力：常に協力しながら情報を共有し、また援助も受けたい。

●西地区全体の交流：2013年3月16日に「小平西地域まつり」を開催したい

●広報・連絡：ウェブを充実し、また広報紙も発行する

7. 地域からの発言(要旨):テーマ「お互いの顔が見える地域づくり」

(1)小野寺 徹 (よしの自治会会長・小川西町在住)



私たちの自治会は50年前に設立。「遠くの親戚より近くの他人」のことわざ通り絆を大切にしている。ふれあいをどう広げていくかが課題となっている。25年前までは会長は1年交代だったが、それではうまく機能しないということで自治会規則を改訂し、「再任可」とした。また事務局を作り、市との折衝をやり、幹事会を設置した。役員は全員無報酬。

主な行事は、①10月の「青少対祭り」で50~60人が参加しもちつきなどをする。②防災訓練——ま

わりの数自治会と一緒にいき(去年は180人が参加)、「基本訓練、救急救護、炊き出し」の3つを実施。

③親睦会(これが一番大事)——バス、電車による旅行で、子どもも大人も楽しめるものにする、目的地は会員からの要望で決める(去年は横浜)。ホームページをもっている(会員専用ページも)。

今後の課題:①自由に使える場所の確保、②大震災の備えの訓練、③50周年記念事業としてパネルディスカッション。

(2)渡辺穂積 (小平市高齢者クラブ「富寿美(ふじみ)会」会長・鷹の台在住)



小平市には高齢者クラブ連合のもとに33のクラブがある。「健康、友愛、奉仕」を柱に活動している。我がクラブは小川1丁目、鷹の台、上水新町、津田町の一部をエリアにしている。西地区には5~6の高齢者クラブがある。クラブ会費と市からの補助で運営している。現在110名の会員がいる。

地域にはいろいろな事情で会合に出て来られない人たちがたくさんいる。そういう人たちとつながっていきたい。いわば「仲よし倶楽部」だが、会員でないと人ともつながりたくない。会員は60~90歳代で、元気ハツラツに活動している。会員の知識・経験を

有効に生かしたい。

先ほど話があったが、最近「孤立死」が途切れない。この悲惨な出来事を避けるために私たちは「隣組」という歌を歌っている。歌詞を紹介する。

「トントンとんからりととなり組／格子を開ければ顔なじみ／回してちょうだい回覧板／知らせられたり知らせたり」。「トントンとんからりととなり組／地震、雷、火事、泥棒／互いに役立つ用心棒／助けられたり助けたり」。

私たちに今大事なものは①あいさつ、②世代間交流、③井戸端会議(現代風にいえば“コミュニティ・カフェ”)。愚痴や相談ごとを気楽に話せるようにクラブにしたい。

(3)足立隆子(こだいら自由遊びの会・小川町在住)



資料の裏面に2011年の活動報告がある。近年子どもたちの生活にいろいろな器具が入り込み、便利すぎる生活に送っている。私たちの会は土、火、水などを使う基本的な遊びを子どもたちにさせている。子どもたちに生きる力を育てたいからだ。中央公園の体育館のとなりの林でロープ遊具、ベーゴマ、穴掘り等の遊びを大人も子どもも楽しく一緒にやっている。その中でコミュニケーション能力をつけたい。また小平子どもキャンプ場、きつね原っぱで火を使い煮炊きをし、もちつき、焼

き芋をして大人子どもが楽しい時間を過ごす。地域のいろいろな人たちとつながることが大切にしている。

私たちの会と「災害ボランティアネットワーク・チーム小平」などの団体で5月3~6日の連休に福島から40人の子どもを招待して中央公園の林で思いっきり外遊びをしてもらうというプロジェクトを企画している。みなさんに遊びなどのいろいろなボランティアになっていただきたい、4、5日にはホームステイをしてくださる家庭も募集している。お手伝いをお願いしたい。

(4)西村 弘(小平ユネスコ協会・小川町在住)



私たちは、パリにあるユネスコではなく、100カ国にある3,600くらいある民間のユネスコ活動の団体である。”Think globally, act locally”をモットーに地球規模でモノを考え、地域でいろいろな活動をしている。最近では文化財保護活動、特に玉川上水を「世界遺産」にしようという運動を推進している。グリーンベルト、市民憩いの場である上水をみんな

の力で後世に残していこうと考えている。

具体的には、小中の総合的な学習の時間で玉川上水についての学習、玉川上水の意義と役割についての連続講演会の開催、2ヶ月に1回玉川上水沿いを歩く自然観察会を行なっている。また国際交流活動では、世界の料理を作り味あいながらその国の文化を学び交流する。つい最近はおひな祭りで交流した。外国のバンドを呼んでコンサートも開く。地域のつながりを大事にしていきたい。

(5)芳井 正彦(民生・児童委員・上水新町在住)



昨日のNHK番組で「孤立死」をとりあげていたが、そこに民生委員が登場していた。小平市は6つに地域に分けて、全部で137人の民生委員が配置されている。毎月各地域で委員の協議会を開催、西地域は府中街道から西側で、青梅街道を境に南側が第1地区、北側が第2地区となっている。

活動は一言で言えば、地域住民の「身近な相談相手」、「行政側とのパイプ役」。具体的には高齢者の実態把握、安否確認、見守り、声かけ。高齢福祉、障がい福祉、児童福祉、生活福祉、子育て支援など6つの専門部会を設けている。厚生労働大臣からの委嘱を受けているので守秘義務もある。昨年3.11大震

災のあと高齢者世帯の安否確認を実施。地震でガスが止まってしまったので栓を開けてあげて大いに感謝された。

また災害時の要援護者の市への登録、緊急医療キットの支給(昨夏の猛暑対策で「ひんやりマフラー」の支給)を行っている。「子どもは未来への大切な贈り物」の観点から学校と連絡をとりいじめ・不登校・虐待の防止にも取り組み、子どもの健全な育成をめざす。社協とも協力して「福祉バザー」、「障がい者運動会」等も支援している。

昨年は日本全国で自殺者が3万人を超えた。その大きな原因は相談相手がいなかったことだ。私たちは「身短な相談相手のおじさん、おばさん」。なんでも安心して相談しに来ていただきたい。

(6)増永ハツ子(小平市地域包括支援センター・けやきの郷、小川町在住)



小平市の「介護・予防見守りボランティア」は、西地区でモデル事業として昨年8月から取り組み始めた。西地区の自治会と相談して、地域の高齢者の中の元気な人に介護予防の推進を兼ねて外出の機会を増やしてもらうということから始まった。「地域見守りボランティア」を募集した。介護福祉課、社協、私たちのけやきの郷の3者でスタートした。

その方たちは、買い物がてらに行う「さりげない見守り」活動の中で“気になる高齢者”を発見した時に包括支援センターに連絡してもらう。センターは市や民生委員と相談しながらその人を介護のサービスにつなげるなどの役割を果たす。このボランティアは65歳以上の方で、一定の研修を行ってからやっていただく。

24年度には2ヶ月に1回ボランティアの交流、フィールドワーク(街歩き)を行いたい。「社協だより」で順次お知らせをしたい。



(7)毛利弘美(学校支援コーディネーター・鷹の台在住)



子どもを取り巻く環境が近年大きく変化してきている。学校は様々な課題を抱え、地域の「教育力」が低下してきている。学校、家庭、地域での連携が必要。平成18年度に教育基本法が改正され、「学校、家庭、地域住民との総合的な連携・協力」の規定が新設された。学校支援地域本部、放課後子ども教室などが推進されるようになった、これらは地域住民や企業、NPOなどの協力で運営される、平成13年度に「21小平の教育アクションプラン」が策定され、「地域で育てよう健やかな子ども」を合言葉に運動を進めてきた。平成14年度から国に先立ち「学校支援地域本部事業」と同じ

内容の東京都補助事業「小平地域教育サポートネット事業」で学校と地域を結ぶコーディネーターの養成を開始。現在コーディネーターは市内の各小中に配置されている。校長から推薦され市から委嘱を受けてから任務を果たす。

私が属する学校でボランティアを募集したところ、24人集まり研修を行なった。その結果、校内で図書・学習活動などの支援に関わっている。昨年は3.11大震災の後、命の大切さを知ってもらうため、昭和病院の小児科医師を招いて講演会を開催して好評だった。また食育に関する取り組みも行なった。今後活動をますます発展させたい。

(8)斎藤武史(小平市役所地域文化課長)

小平西地区地域ネット



私の課は自治会・コミュニティを所管している。3.11大震災により、いざというとき、行政側にも限界があることが明らかになった。今後、基本的に地域でできることは地域で担っていくことが大切。地域の課題、たとえば防犯、防災、ゴミ処理、高齢者の見守りなどの問題を解決していくのは地域自身である、そのためにネットワーク作りが必要になってきている、と考える。

行政は平成24年度から「地域自治」を重点施策にしている。地域ネットワークのモデル地区を重点的に支援していきたい、具体的には市内には18の地域センターがあるが、そこで地域活動の拠点となるように「地域協議会」が結成されることを願っている。そういう意味で、この西地域ネットワークには非常に注目している。

事務局からのお知らせ

「地域ネットワークに関する調査」アンケートにご協力ください。

今後の予定

9月20日(木) 世話人会
9月27日(木) 懇談会
11月22日(木) 同
1月17日(木) 同

世話人一覧(敬称略)

西克彦、布昭子
芳井正彦、足立隆子
福井正徳、桜田誠
渡辺穂積、萩谷洋子
久保田進、石川貞子

投稿・意見募集・イベント情報提供

このニュースは皆さんのご協力により作っていきます。積極的な投稿・意見・情報を下記までお寄せください。

Eメール:

ever.onward.nara@aroma.ocn.ne.jp 奈良

ホームページ:

<http://daigaku.shiraume.ac.jp/nishinet/>

(投稿) 連休を小平で過ごした福島の子どもたち

こだいら自由遊びの会 足立隆子

昨年3月に東日本は恐ろしい地震と経験したことのない大規模な津波に襲われました。そして福島では、あってはならない原子力発電所の爆発事故により放射線漏れという深刻な事態が続いています。体に影響を受けやすい子どもたちは外遊びができません。子ども時代の遊びはその子が育ち、大人になっていく過程で、そして豊かな人生を送るために必要な土台となる大切な要素です。不条理にも遊びという自由を奪われてしまった子どもたちに、少しの間でも思いっきり遊んでもらいたいと今年の夏休みに有志が集まり、《福島の子どもを招く小平の会》を立ち上げ、小平市の八ヶ岳山荘に福島の子どもたちを招き、遊びと保養をしてもらいました。そしてそのネットワークで《災害ボランティアネットワークチーム小平》《小平市青年会議所》《福島県人会》《NPO 法人こだいら自由遊びの会》《白梅学園大学子育て広場》《NPO 法人ワーカーズコープ》《ボーイスカウト小平5団》とつながり、「福島と小平のこどもたちの会」ができました。

資金集め、バスの手配、福島の子どもの募集などから始まり、ホームステイ先やボランティアの募集、プログラムやスケジュールの調整、食事の用意など多岐にわたる仕事や連絡、確認を初対面の方々と進めていくことは容易ではありませんでした。

それでも5月3日に元気な福島の子ども38名を、その日の宿舎になる神明幼稚園にお迎えすることができました。渋滞で4時間もオーバーしていましたが、疲れた様子もなく用意されたカレーの夕食をいただき、音楽遊びをしました。

4日は中央公園の林に集まり、自己紹介ゲームなどしました。林の中につるした7mくらいあるハイジブランコやハンモック、滑車ロープ、大型滑り台、木工コーナーなどで遊ぶ予定でしたが、午後からはあいにく雨が降り中央体育館の中でマジキットという段ボールを組み立てて迷路などを作る遊びや、段ボールキャタピラ作り、新聞紙タワー、竹の楽器遊びなどをしました。ここでは白梅や近隣の大学生が大活躍してくれました。夕方からホームステイ先のお宅の方がお迎えに来てくれて、温かいお食事が待っているお家にそれぞれ帰って行きました。

5日は朝から最高によく晴れて林の中で思いっきり遊ぶことができました。先に書いた遊びのほかにも大人気だったのがチャンバラ遊びです。たたいも怪我しないような手作りの剣で戦います。時々ダースペーダーに扮した悪役のおじさんが出現して、さらに盛り上がっていました。風船工作やマジックバルーン作りも楽しめました。

夕食後は林の中に大きなスクリーンを張って幻燈会・宮

澤賢治作「やまなし」が開かれました。この幻燈会に使われる電力はすべて昼のうちに参加者が自転車発電したものです。小林敏也さんの絵が映し出されると静かに始まりました。朗読のバックには幻想的な横笛と竹のパーカッションの音楽が響きます。月夜の林は不思議な一体感に包まれていました。

6日最終日にはふるさと村にホームステイ先から子どもたちが集まってきました。お土産を買ったり、ベーゴマで遊んだりしているといよいよ閉会の時間が近づいてきました。奈良先生がトルコにいらしたときに、地震に被災した子どもたちが日本の子どもに宛てて書いてくれたメッセージを伝えてくれました。つらい経験をしたからこそ遠い国の子どもたちを気遣ってくれる温かい気持ちが生まれるのかもしれませんが、福島の子どもたちにも思いが通じたでしょうか。

たくさんの皆さんに見送られてバスは出発しました。「小平の人が遠くなっちゃう」としんみりとしていた子もいましたが、学芸大のおにいさんが用意してくれたゲームに興じながら5時間余りの道のりを楽しく過ごし、無事ご家族のもとに帰って行きました。名残惜しそうにしていた子もいましたが、たくさんの思い出を胸にお父さんやお母さんに会えてほっとした様子でした。きっと夕ご飯の時にはお土産話に花が咲いたことでしょう。

こうして過ぎてしまえば短い時間でしたが、たくさんの人の善意や思いやりによって成り立ったビッグなプロジェクトでした。白梅学園大学をはじめ、ご協力いただいたすべての皆様に心より感謝いたします。

(写真：遊びに興じる子どもたち。本部テント付近)



地域ネットワークの団体のイベント・行事予定(変更もあり)

月	日	(曜)	イベント・行事名	会場	月	日	(曜)	イベント・行事名	会場
5	20	日	富寿美会カラオケ大会(1時)	小川公民館	7	11	水		
	21	月				12	木		
	22	火				13	金		
	23	水				14	土	土曜子ども広場”友遊” 第4回土曜子ども広場	小川西町公民館 小川公民館
	24	木				15	日		
	25	金				16	月		
	26	土	玉川上水自然観察会 障害者運動会	(集合)上水本町地域C 萩山公園グラウンド		17	火		
	27	日	上宿公民館まつり	上宿公民館(345-0011)		18	水		
	28	月				19	木		
	29	火				20	金		
6	30	水			21	土	親子わくわく体験会	十三小青少対	
	31	木	小川西町地域サポーター養成講座	ほのぼの館(343-7770)	22	日			
	1	金			23	月			
	2	土	子どもペーゴマ大会 十二小クリーン作戦	ふるさと村(343-8155) 十三小青少対	24	火	夏休み子ども映画会	小川西町公民館	
	3	日	地域防災の実技	(未定)	25	水			
	4	月			26	木			
	5	火	たんぼぼ広場	健康センター(3463700)	27	金			
	6	水			28	土			
	7	木	3・2・8道路意見を聴く会 小川西町地域サポーター養成講座	ルネこだいら 障害者福祉センター	29	日			
	8	金			30	月			
7	9	土	第3回土曜子ども広場	小川公民館(343-3620)	31	火			
	10	日			8	1	水		
	11	月			2	木			
	12	火			3	金			
	13	水			4	土			
	14	木	小川西町地域サポーター養成講座	障害者福祉センター	5	日			
	15	金	世界の家庭料理	中央公民館(341-0861)	6	月			
	16	土	土曜あそび場・マジキットと7ボール作り クリーン作戦・土曜遊び場	十二小体育館 十二小青少対	7	火			
	17	日	市民体力測定会	総合体育館(343-11611)	8	水			
	18	月			9	木			
7	19	火			10	金			
	20	水			11	土			
	21	木	上宿フェスティバル / 納涼祭	上宿小 / 一小青少対	12	日			
	22	金			13	月			
	23	土	土曜子ども広場”友遊”	小川西町公民館	14	火			
	24	日	NPOセミナー	白梅学園大学(346-5639)	15	水			
	25	月			16	木			
	26	火			17	金			
	27	水			18	土			
	28	木			19	日			
7	29	金			20	月			
	30	土	ユネスコ・ポップフェスティバル 白梅子育て広場あそぼうかい	ルネこだいら 白梅大学J棟(346-5639)	21	火			
	1	日			22	水	「森で遊ぼう2012」	中央公園樹林	
	2	月			23	木	↓		
	3	火			24	金	↓		
	4	水			25	土	↓		
	5	木			26	日	ルネこだいら夏休みフェスタ	ルネこだいら	
	6	金			27	月			
	7	土			28	火			
	8	日			29	水			
7	9	月			30	木			
	10	火			31	金			

(注)この予定表は、紙幅の都合で「学校公開」など地域内のすべての計画を掲載しているわけではありません。